

# 日本のポップカルチャーの祭典「ジャパン・エキスポ」アンケート結果まとまる

2010年9月30日

パリ事務所

当事務所では、2010年7月1日～4日にパリ郊外で開催された日本のポップカルチャーの祭典「ジャパン・エキスポ」に出展し、地方自治体のマスコット・キャラクターを使って観光PR等を行いました。会期中に、来場者1200名以上の方々にご協力頂いたアンケート結果がこのたびまとまりました。（アンケート作成にあたっては440枚を抽出）

日本訪問の意向や訪問の動機、日本の好きなところ、自治体のキャラクターに関する感想など、フランス人が現代の日本についてどのような関心を持っているのかがわかる内容となっております。今回は、アンケートの主な結果をご報告いたします。アンケート結果の詳細は、以下をご覧ください。

<http://www.clairparis.org/img/pdf/new/2010/75.pdf>

また、パンフレットやキャラクターの提供にご協力いただいた自治体からは、それぞれの広報媒体を通じて、徐々に反響も出てきております。併せてご覧ください。

## <参考>

各自治体における反響

鹿角市 <http://blog.livedoor.jp/kazuno2009/archives/1440971.html>

茨城県 <http://plaza.rakuten.co.jp/machi08ibaraki/diary/201009110000/>

## <主なアンケート結果>

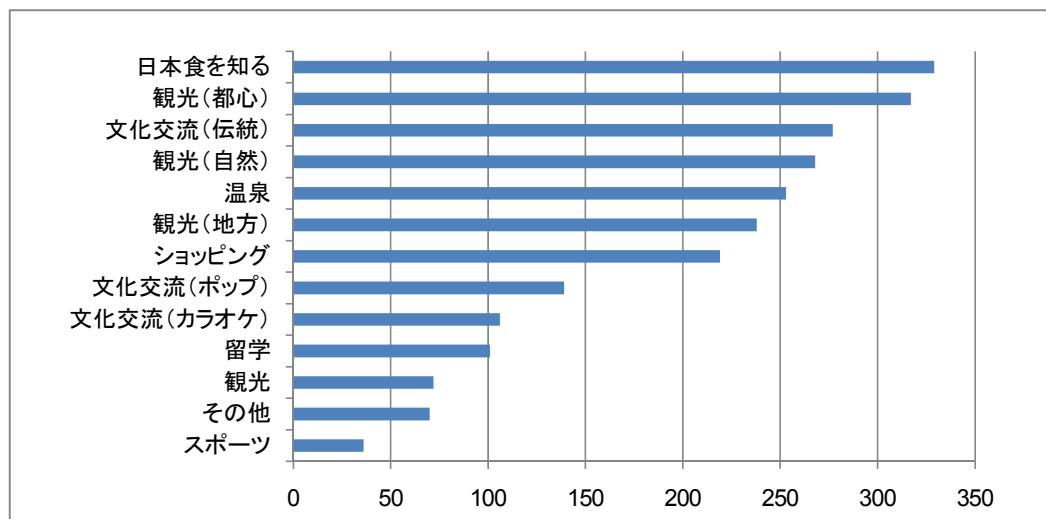
### 1 日本で行ってみたい県（上位15県）（Q　日本のどこに行きたいか？）

東京都、京都府、大阪府に続いて4位に北海道、5位に沖縄県がランキングされたことは、フランスで日本の地方が広く浸透していることを示すものとして注目に値する。このうち沖縄県は、パリの国際観光見本市におけるキャンペーンなどを通じて海外リゾートを好むフランスで密かな盛り上がりを見せており、最近では長寿の県としても話題になっている。その他、広島県や長崎県は、フランスの歴史教科書でも原爆が投下された事実が取り上げられていることや、広島県については日本政府観光局による宮島の写真を使った観光PRの効果もあったのではないかと推察される。

順位	県名	回答者数
1位	東京都	261人
2位	京都府	222人
3位	大阪府	182人
4位	北海道	143人
5位	沖縄県	129人
6位	広島県	125人
7位	長崎県	99人
8位	兵庫県	57人
9位	奈良県	54人
10位	長野県	52人
11位	宮崎県	50人
12位	愛知県	48人
13位	千葉県	44人
	福岡県	44人
15位	岡山県	30人

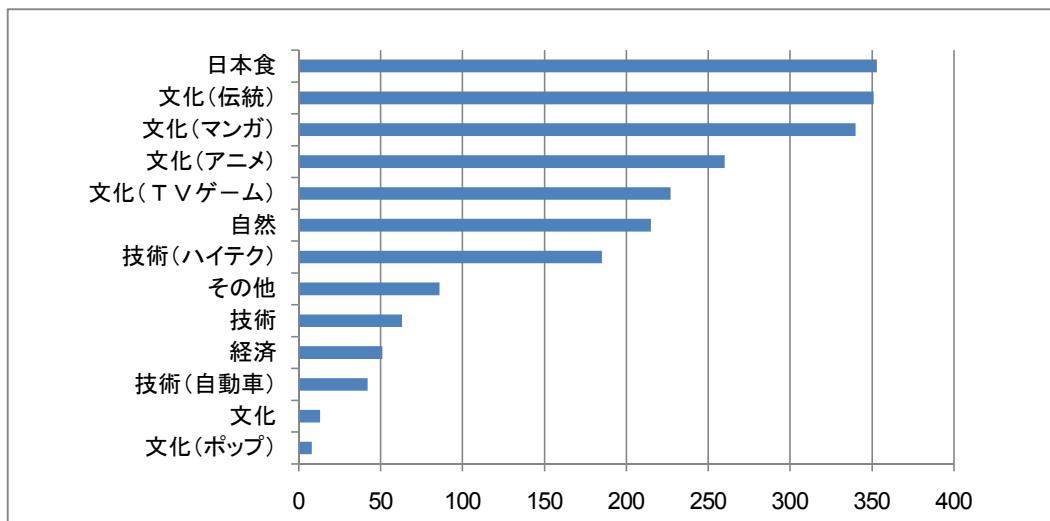
## 2 渡航目的 (Q 日本で何をしたいか?)

アンケート回答者の6割強が25歳以下である一方、31歳以上も約2割おり（詳しくはアンケート結果参照）、これらの世代が、日本のポップカルチャーに魅了されていることは広く知られているが、こうした世代が実際には日本で何をしたいか聞いたところ、まずは日本食を試したいという結果が出ている。また、伝統文化の鑑賞、地方や自然の観光、温泉などが渡航目的の上位に来ていることも注目に値する。日本の自治体として、フランス人観光客を誘致するためには、これらの観光資源のPRをすることが効果的だと考えられる。



### 3 日本の魅力 (Q 日本の魅力は何か?)

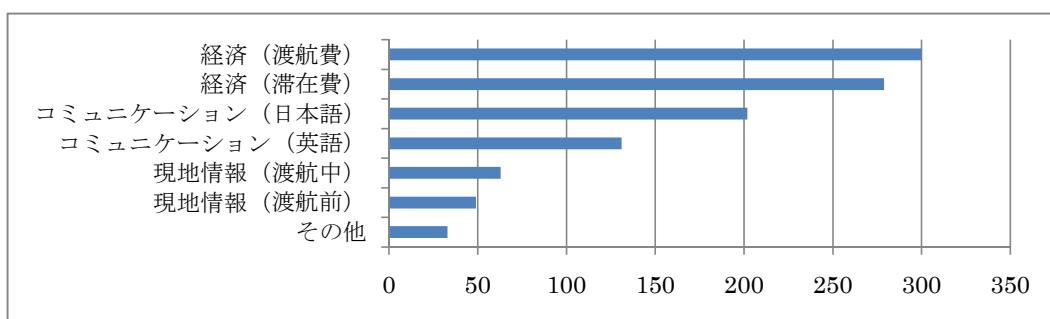
マンガやアニメに関心のあるフランス人が、マンガやアニメ以上の魅力を日本食や日本の伝統文化に見出しているということが分かる。このことは、彼らがマンガやアニメを卒業したとしても、日本への関心を持ち続け、観光客などとして来日することを期待できると考えられる。



### 4 日本へ行く際の心配事 (Q 日本へ行く場合の心配は何か?)

フランス人は、実際に日本への渡航を計画する際に、最近の円高傾向もあり、渡航費や滞在費が高いことを懸念している。日本側でも、最近話題になっている地域のB級グルメのように、手頃な値段で美味しい日本食が数多くあることなど、「思っているほど日本は高くない」ことを積極的に宣伝する必要があると考えられる。

また、言葉の面についても、渡航する際の不安要素として大きいという結果が出ており、「観光案内所や宿泊施設では少なくとも英語対応が可能である」という環境整備が、受入れ側の自治体にとって必要であると考えられる。



### 5 地方自治体のマスコット・キャラクターに対する反応について

ジャパン・エキスポの来場者にも日本の「ゆるキャラ」に対する関心は非常に高く、「カワイイ」と大変好感を持って受け入れられた。日本の地方自治体が観光パンフレットを作成する際、マスコット・キャラクターを使用することも、宣伝効果を高める手法の一つであると考えられる。